



スタイリッシュな空間

心の中に光を灯す「光的空間・新華書店」

本を並べただけの素っ気無い空間が気鋭のデザイナーによって斬新かつスタイリッシュな魅惑の空間へと変貌し始めます。上海には、安藤忠雄が手掛けた「光的空間・新華書店」、レトロ調デザインが特徴の「大隱書局」、高層ビルに鎮座する雲上の「雑雲書院」、詩歌の殿堂「思南書局」、最も美しいと評判の「鐘書閣」等が点在し、その見事な空間デザインに目を見張る景観が広がります。



特集

開港 15 周年を迎えた富士山静岡空港

静岡県海外技術研修員 医療・経済・介護分野で研鑽

- ◎ ウォッチング 中国の今・・・急速に普及する「新エネルギー車・EV」
- ◎ 駐在生活からみえる「今日のランチ」 静岡県上海事務所 石川祐介所長
- ◎ 中国啤酒物語 -VOL.4-
- ◎ 呉昌碩の世界 詩・書・画・篆刻の巨匠



15周年を迎えた富士山静岡空港

富士山静岡空港は2009年6月に開港し、2024年に15周年を迎えました。2025年夏ダイヤでは、国内線は札幌（新千歳・丘珠）、出雲、福岡、熊本、鹿児島、沖縄の計7路線、国際線はソウル、上海、杭州、香港の計4路線、合計で11路線の定期便が運航します。「静岡の空の玄関口」として旅行やビジネスに高い利便性をもたらしています。

搭乗者数、800万人達成

2009年6月に開港以来、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月から2023年1月にかけて国際線は全便が欠航となる時期もありましたが、搭乗者数は順調に伸び、2024年12月末には累計搭乗者数800万人を達成しました。また、年別の空港旅客数推移表から、国内線だけではなく国際線にも力を入れていることが分かります。空港総数と順位を見ると、国際線と国内線の合計では中位のクラスにあるにも関わらず、国際線では比較的上位のクラスを保っており、全国的にも海外路線が強いことが窺えます。

2018年にはターミナルビルを増築・改修し、延べ床面積は約1.5倍となりました。搭乗待合室等の機能や面積を拡充させるとともに、利用者の利便性向上のため、飲食・物販店舗スペースを拡充、ビジネスラウンジを新たに整備しました。富士山静岡空港限定グッズ・静岡茶・静岡銘菓・静岡おでんなど地場産品が並び、お土産の購入には困りません。海鮮グルメ

搭乗者数推移	
2011年 2月	100万人
2013年 5月	200万人
2015年 4月	300万人
2016年 10月	400万人
2018年 5月	500万人
2019年 9月	600万人
2023年 2月	700万人
2024年 12月	800万人

★年別静岡空港旅客数及び空港別順位の推移★

(出典:国土交通省空港管理状況調査)

年	国際線			国内線			合計		
	旅客数	順位	空港数	旅客数	順位	空港数	旅客数	順位	空港数
2013年	173,461	9	51	287,196	46	90	460,657	40	90
2014年	203,933	9	49	303,017	46	89	506,950	41	89
2015年	390,740	8	51	308,536	46	90	699,276	36	90
2016年	278,030	9	50	338,354	46	91	616,384	40	91
2017年	289,613	10	45	381,969	46	89	671,582	38	89
2018年	290,015	14	51	427,348	44	89	717,363	39	89
2019年	317,142	12	47	488,053	42	92	805,195	39	92
2020年	35,430	12	41	190,414	42	90	225,844	40	90
2021年	0			166,838	43	90	166,838	43	90
2022年	0			328,296	41	91	328,296	41	91
2023年	66,644	16	44	422,983	45	92	489,627	40	92

のレストランのほか、フードコートには、地元食材である静岡そだち、浜名湖産ウナギを扱う店舗が2025年2月にオープンしました。3階の展望デッキからは富士山を背景に離着陸する飛行機を見ることができ、特に家族連れに人気があり、飛行機に搭乗しなくても楽しめる場所となっています。

開港時より、中国便就航



写真左：静岡空港と共に 15 周年を迎えた中国東方航空の静岡—上海（浦東）線 / 右：2009 年 6 月 5 日初便記念式典

開港前の 2008 年、中国東方航空は、静岡—上海（浦東）線の就航を表明、静岡との直行便に積極的な姿勢を示し、開港当初より定期便を就航しています。開港日翌日の 2009 年 6 月 5 日、中国東方航空は上海浦東空港から富士山静岡空港に向けて出発しました。浙江省政府は就航を記念して、初便搭乗により代表団を本県へ派遣しました。当協議会もこの日の上海浦東行の初便に搭乗し、就航記念中国訪問団を派遣し、浙江省と上海市を訪問しました。

その後、中国各地の定期便は数を増やし、開港 2 年目の 2010 年から 2019 年までの間と 2022 年には、外国人出入国者数が地方管理空港で全国 1 位を記録しています。

コロナ禍で一度直接の往来は途絶えましたが、2023 年 9 月には上海便が、2024 年 7 月には杭州便が運航を再開し、同年 12 月からは香港便が新規就航しています。

2024 年 11 月 30 日、中国の日本に対するビザ免除措置が再開した現在、コロナ禍前のように浙江省をはじめ、中国各地と直接つながる便が増えることが期待されます。

（注）本表は定期便の就航、延伸及び運航再開のみを記載

★富士山静岡空港における中国との就航路線の変遷★

2009 年 6 月	中国東方航空「上海」就航
2012 年 6 月	中国東方航空「上海」を「武漢」まで延伸
2015 年 1 月	天津航空 「天津」就航
2015 年 3 月	中国東方航空「寧波」就航
2015 年 5 月	中国南方航空「武漢」「南寧」就航 天津航空 「西安」就航
2015 年 6 月	中国南方航空「鄭州」就航
2015 年 7 月	北京首都航空「杭州」就航 中国東方航空「温州」、「南京」就航 中国南方航空「長沙」就航
2015 年 9 月	北京首都航空「石家荘」、「塩城」就航 中国東方航空「合肥」就航
2015 年 12 月	北京首都航空「塩城」を「海口」まで延伸
2016 年 1 月	中国東方航空「杭州」就航
2016 年 3 月	北京首都航空「済南」就航
2016 年 5 月	北京首都航空「瀋陽」就航
2016 年 7 月	天津航空 「大連」就航
2018 年 12 月	中国聯合航空「煙台」就航
2019 年 7 月	四川航空 「西安」就航
2019 年 10 月	中国東方航空「南昌」就航
2019 年 11 月	中国東方航空「連雲港」就航
2019 年 12 月	上海航空 「温州」就航
2020 年 1 月	中国聯合航空「煙台」を「北京」まで延伸
2023 年 9 月	中国東方航空「上海」再開
2024 年 4 月	中国聯合航空「榆林」就航
2024 年 7 月	北京首都航空「杭州」再開
2024 年 12 月	香港エクスプレス航空「香港」就航

静岡県海外技術研修員

医療・経済・介護分野で研鑽

1981年より行われている、静岡県海外技術研修員受入事業が今年度も実施されました。今年度は3人(浙江省から2人、国の研究機関から1人)が2024年10月27日に来日し、4か月間本県に滞在し、それぞれ医療・経済・介護の専門機関で研修を行いました。

消化器外科医の**裴磊さん**は、静岡県立総合病院にて消化器科に関わる検査や日本の最新医療技術を学びました。高齢者介護施設の施設長の**李亜芳さん**は、静岡県庁で福祉政策を、また県内の様々な介護施設で運営管理や高齢者に対する介護方法・介護技術を学びました。国際貿易を研究する**叢思雨さん**は、静岡経済研究所で県内経済の状況に対して、県立大学グローバル地域センターで本県産業に対する理解を深めました。



裴 磊 (はい らい) さん *写真、右側

研修分野：医療 所 属：浙江省中医院

研 修 先：静岡県立総合病院

★肝胆膵外科・消化管外科で、ロボットや腹腔鏡システムを用いた最先端の医療技術や医療設備を学び、きめ細かな医療サービスを実感しました。医療関係の友人もたくさんできました。帰国して、今回学んだ医療技術や理念を広めていきたいと思います。

李 亜芳 (り あほう) さん *写真、左側

研修分野：介護 所 属：杭州熙鴻谷雨半山健康養老有限公司

研 修 先：県健康福祉部、(福)聖啓会、(株)アイドラッグ、インフィック(株)、(福)駿府葵会

★研修を通じて、日本の介護サービスの組織構造や、介護サービスの理念を理解しました。また、行政・病院・企業・非営利組織と地域による多元共同体による介護サービスの実現やスマート介護等についても学びました。杭州市の介護分野の取組に役立てたいと思います。

叢 思雨 (そう しゅう) さん *写真、中央

研修分野：経済 所 属：中国商務部国際貿易経済合作研究院

研 修 先：(一財)静岡経済研究所、県立大学グローバル地域センター

★静岡県の主要産業について学び、県下の企業を見学しました。特に茶産業に対する研究を深めることができました。日本語や日本文化への理解も深まりました。帰国後は各方面でこの貴重な経験を生かすと同時に、日中友好交流に貢献して行きたいです。

ウォッチング 中国の今

急速に普及する「新エネルギー車・EV」

2024 年末、中国新エネルギー車の業界団体、中国電動汽車百人会は、中国製の「新エネルギー車」の 2025 年の世界販売台数(国内販売と輸出の合計)が 1650 万台に達し、前年比 3 割近く増加するという予測を発表しました。また、同年エンジン車を含む中国製自動車の世界販売台数は 3200 万台、うち半分強を新エネルギー車が占めると見込んでいます。

EV市場を支える緑色ナンバー

中国市場でEV車の人気が高い理由として、まず「低価格でコンパクトなEVが数多く用意されている」という点が挙げられます。かつて、2020年に上汽GM五菱が日本円約50万円という低価格でEV車を販売、大ヒットしました。現在コンパクトカークラスでは、全長4m前後の4人乗が支持されており、BYD「海鷗」と上汽GM五菱「繽果」が特に人気を集めています。また、EV購入時にはさまざまな優遇措置を受けることもできます。税率10%の自動車取得税の減免措置は2027年末まで延長されました。EV・PHEVに緑色・エコナンバープレートが交付され、運転するにあたり通行制限が少ないというメリットもあります。



競争が激化するEV

中国は世界のEV市場であると同時に、「世界一厳しい自動車市場」でもあり、中国国内の国営・民営メーカー、日本・欧米・韓国等海外メーカー、新興EVメーカーがしのぎを削っています。BYDは民営メーカーの最大手で、リチウムイオン電池開発の技術力を車に転用し、2003年に自動車の製造に参入、2020年代にEVとPHEVで販売台数を大きく伸ばしました。ボルボやベンツを従える吉利汽車は「ZEEKR」というEVブランドを持ち、2023年末に発売した高級セダン「007」が販売数上位となっています。理想汽車は中国で注目されている新興自動車メーカーであり、新興メーカーの成功ラインとされる年間10万台を超え、通期の黒字化も達成、2024年3月には初のEVとなる7人乗りのミニバン「MEGA」を発売しました。



EVの普及を支える充電インフラ

EV車の普及が進むにつれて、充電インフラの拡充にも重点が置かれています。中国政府は、2030年までに広範囲にわたる充電インフラを構築し、国民の充電需要を満たすことを目指しています。都市部と高速道路の充電インフラのカバー率を向上させ、農村部の充電インフラも拡充する予定です。国際エネルギー機関(IEA)の発表データによると、中国国内で利用できる公共用のEV充電器数は、2023年時点で

270万台。そのうち150万台が普通充電器、120万台が急速充電器です。



駐在生活から見える 「今日のランチ」

大家好！（皆様こんにちは！）、静岡県上海事務所の石川です。4回シリーズで「今日のランチ」をテーマに、駐在生活からみえる中国の今をお届けします。



静岡国際経済上海事務所
石川祐介所長

早いもので本シリーズも今回が最終回。日中関係における「この1年の最も大きな変化」と言えば、昨年11月の中国ビザ免除の再開ではないでしょうか。中国からのインバウンド客数の回復や、中国向け食品輸出の条件緩和に向けた期待感から、弊所も多くの県内事業者様にお立ち寄りを頂くようになりました。



出張者との食事では、「折角だから現地の美味しいものを食べたい！」とのリクエストを頂きます。上海はグルメ天国ですから、ゴマダレ香る麻醬面が有名な『味香齋（ウェイシャンジャイ）』、箸でも切れる豚角煮で人気の『人和館』など、お勧めは沢山ありますが、限られた時間・予算で楽しんで頂くのも駐在員の腕の見せ所。駐在員には「日々の1食」でも、出張者には「特別な1食」ですから、業務の合間にも楽しんで頂こうと、日々、新しいお店にも足を運んでいます。

さて本日は、南京西路の旅行社セールス後、県内からの出張者とのランチです。「中国らしい食事を体験したい！」との要望で訪れたのは『屋有鮮（ウーヨウシェン）』。2025年ミシュラン1つ星を獲得した小籠包の人気店で、「蟹粉湯包：カニ肉入り小籠包」（58元≒約1,160円）は、カニの濃厚な旨味と特製酢醬油の酸味が相性ぴったりの一品です。



入店待ちのお客様が並び始めたので30分ほどで食事を済ませると、午後からのアポイントまで中国茶館『初末茶舎』へ。緑茶、ジャスミン茶、白茶を飲み比べ、わずかな時間ながらも、中国の食文化に触れて頂きました。

出張者からは「アフターコロナの中国は、想像以上にIT化や自動車の電動化が進んでおり驚いた」との声を伺います。「百聞不如一見（百聞は一見に如かず）」は、漢書由来の有名な成語ですが、中国では「耳聽是虚、眼見是実（耳で聞くものでなく、眼で見るものが真実だ）」とも言います。



ビジネスで中国に関わる方には、ぜひ中国の変化を肌で感じて頂けたら幸いです。現地では、とっておきのランチをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています！

中国啤酒物語

VOL4



中国ビール業界は近年になって大企業化が進み、効率化により利益体質を作ってきました。しかしながら、今また時代と共にビール業界も転換期になっているようです。



変革を求められる中国啤酒業界

中国ビール業界は、大手企業の生産量は2018年以降減少傾向にあるものの、企業利益は上昇傾向にあります。2024年1～10月では、2023年の同時期に比べ1.8%減少、企業の第三季までの業績も下降傾向にあります。

転換期にある中国ビール業界は、これまで生産の効率化を図り、低コストで安定した品質を実現させブランド力と利益を確保してきました。今日、ビールに対するニーズが多様化・個性化につれて、ビール愛飲家はクラフトビールをより求める時代になると言われます。また、中国のビール業界は、日本と同じく、ニーズの多様化や、若年層のアルコール離れ、多彩なブランドによる競争の激化等の課題を抱え、ビール商品の高級化や多様化・個性化、生産技術のデジタル化、SDGsへの対応が求められています。



ビールで町おこし“千島湖啤酒”



個別化が求められる中国ビール業界で、杭州市淳安县にあるビール企業「千島湖啤酒」は、大手企業ではありませんが、特徴的なサービスで消費者を惹きつけています。1987年、千島湖水源である霞源山から取水してビール製造を始めた企業であり、2006年には日本のキリンビールと提携しています。2013年からビール工場の隣に小鎮(田舎の特色産業タウン)が建設され、千島湖畔にヨーロッパ風童話の世界観を再現しました。小鎮にはビール博物館と広場があり、ビール博物館では千島湖啤酒の歴史や製造工程等を展示し、ビール工場の生産ラインを見ることもできます。広場では豊富な水資源を生かし、ビールを片手に湖畔の美しい風景や、湖から取れるグルメ、千島湖に伝わる無形文化遺産を楽しむことができます。ビール産業と旅行・文化を融合させたこのレジャー施設は、ビール愛好家ではなくても必見の地、となっています。

ご しょうせき
吳昌碩の世界

詩・書・画・篆刻の巨匠

日本の文化人や芸術家との親交も深かった吳昌碩(1844-1927)は、詩・書・画・篆刻全てに秀でた才能を持つことから「四絶(四つの芸術で並外れた技量や能力を持つ)」と称賛され、中国近代で最も優れた芸術家として知られています。



吳昌碩の日本人弟子 かわいせんろ 河井荃廬



河井荃廬(1871~1945)。字を子得といい、雅号を荃廬としました。京都寺町の名印判屋・川井仙右衛門の長男として生まれ、幼少時から書学、詩文などを学び、20歳近くになって篆刻を学び始めます。吳昌碩の作風にあこがれ、28歳のとき吳昌碩へ手紙を送ります。この時、吳昌碩は55歳、以降手紙による添削指導が始まります。その後1900年30歳で初めて清に渡り、吳昌碩の門に入ります。それからほとんど毎年、多い時は1年に2回中国に渡っていました。1903年、京都の実家を弟の河井章石に譲り、東京に移り住み、1914年には、吳昌碩が初代社長となった西泠印社設立時の発起人の一人となり、結社後は長尾雨山とともに社員となりました。吳昌碩と荃廬の交際は、1927年荃廬57歳、吳昌碩が亡くなるまで絶えることなく続けられました。

幻となった荃廬の書画、収蔵品

荃廬は、若いうちから金石学を非常に深く研究し、正しい印学を日本国内に広めることに努めました。1907年には同志たちと丁未印社を結び、日本新聞や朝日新聞に篆刻の連載を持ちました。特に日本新聞の連載では公募作品の選定と評を行い『日本印叢』が刊行されています。また、荃廬は中国への渡航を繰り返しますが、その費用を賄うため、盛んに篆刻活動を行いました。

他方、荃廬は、明清の書画を多数日本に持ち込み、学術的な研究を深めていきます。書画は、特に趙之謙を中心に名品を集め、1942年には趙之謙展を開催して国内に紹介しています。書籍は、書画・金石・印譜などを膨大に収蔵しました。書道芸術においても自ら収蔵する名品法書のみならず、中村不折や三井家、羅振玉などの収蔵物を複製し、出版しました。

太平洋戦争末期、空襲が激しさを増すなか、荃廬は、居宅が皇居の近くだから爆撃されないと動じませんでした。しかし、1945年3月10日、爆撃に遭い、所蔵する膨大な書画や蔵書の焼失と同じくして、この世を去りました。



発行所：静岡県日中友好協議会 発行人：増井浩二
静岡市葵区追手町44-1(静岡県産経会館1階) TEL:054-255-8111
※「NEWS LETTER」は、当協議会HP (<http://www.japanchina-shizuoka.jp/>) でも閲覧できます。